

第 4 号様式 (第 10 条関係)

会 議 録

会 議 名	第 3 回 武蔵村山市環境審議会
開 催 日 時	令和 7 年 10 月 28 日 (火) 午前 9 時 30 分から 12 時 00 分まで
開 催 場 所	403 集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：尾崎寛直会長、宮田博之委員、尾川和宏委員、佐々木善男委員、竹中輝和委員、金井一三委員、長瀬雄一郎委員、松浦光明委員、渡辺開波委員 欠席者：上原恵美委員 事務局：環境保全係長、環境保全係主事
議 題	1 武蔵村山市第三次環境基本計画 (素案) について 2 答申 (案) について 3 その他
結 論	議題 1：素案について出された意見を踏まえて修正を行う。 議題 2：事務局が、審議会の経過を取りまとめ答申案を作成する。
審 議 経 過	報告事項 第二回環境審議会会議録について (異議なし) 議題 1 武蔵村山市第三次環境基本計画 (素案) について ー武蔵村山市第三次環境基本計画 (素案) (以下、素案という。) の修正内容について事務局から説明ー ●前回の意見を受けて、資料は全体的に大きく修正されている。修正が適切か、ニュアンスが違う箇所があれば指摘してほしい。市民に示す前に、今回の審議会で一度完成形にしたいと考えている。なお、環境に関するイメージ図はまだ空白であるが、パブリックコメント用計画素案には掲載しない扱いなのか確認したい。 <input type="checkbox"/> イメージ図は、パブリックコメントの実施前までには挿入する予定である。 ●そうすると、イメージ図は我々が確認する前に公表される可能性があるということか。 <input type="checkbox"/> パブリックコメント用の計画素案を、後日配布する予定である。 ●イメージ図は評価しにくいのが、ここで示している政策の柱立てが、うまく絵の中に整理されていることが重要である。それが最終的に計画のイラストとして完成するイメージである。大きな論点は、前回計画の評価をどう総括し、それを新しい 10 年計画にどう反映させるかである。そこがきちんとつながらなければ、「前計画を踏まえた計画」とは言えない。今回の改定では、その点を重視している。77 ページ以降に前回計画の目標達成状況の一覧を掲載し、市民からも、どこまで進み、どのような成果があったか、達成・未達成の状況と新計画への反映が分かるようにした。ただし、77 ページの評価結果の表に説明書きがなく、この表が何を示しているか分かりにくいので、基本政策の柱 1 の間に 1～2 行程度の説明を追記してほしい。 それでは、本計画素案全体を見ていただき、まだ修正が反映されていない点や、新たに気づいた点があれば意見をいただきたい。 <input type="checkbox"/> 前回意見を踏まえた修正に感謝する。8 ページ「環境分野別の動向」の

②「気候変動対策の推進」で、削減目標の「何年度比」が抜けているように見える。東京都の「令和12年度までにプラスチック25%削減」は、何年度比なのか確認をお願いしたい。

□東京都の戦略を確認したところ、プラスチック削減は相対的に25%削減とされており、基準年度の明記がない。廃プラスチック焼却は平成29年度比である。

○東京都資料の記載どおりであればやむを得ない。

10ページ⑤「環境教育・環境学習の推進」の修正も対応いただき感謝する。「TOKYO-ecosteps」は、東京都環境公社の自主事業であり、「東京都では」という書き方に含めると、都の事業と誤解される可能性がある。

□確認し、環境公社の自主事業であれば東京都の事業とは言えないので削除する。

●その対応が良い。一旦は現行の記載で進め、後で確認のうえ、必要に応じて修正する方法で良いのではないか。

○30ページの基本政策の柱1「自然と共生するまちの創造」の環境指標について、市街地の緑化率の基準年度（令和6年度）が41.9%となっている。一方、参考資料77ページでは44.5%となっており、整合していない。77ページの44.5%が誤りで、41.9%が正しいという理解でよいか。

□提示されていた資料の数値に誤りがあり、当初は令和6年度44.5%としていたが、確認の結果41.9%が正しい数値であるが、77ページの修正が間に合っていなかった。

○77ページの目標値の令和7年度「148人」は、ボランティア数の目標値だったという理解でよいか。

□緑化率は45%が目標で実績が41.9%である。一方、ボランティア数は148人を目標としていたが、実績はそれを上回っている。

○36ページと42ページの環境指標の目標値について、36ページの「公園緑地等のボランティア人数」は、10年後の令和17年の目標が165人以上となっているが、あまりにも消極的に感じる。「里山等とのふれあいの場の参加者数」（実績18人に対し目標40人）も、周知・広報の強化で、もっと増やすべきではないか。10年後の目標としては低すぎる印象である。42ページの「クーリングシェルの指定数」や「環境学習会の開催回数」も、10年後を見据えるとさらに増やすべきだと感じる。

●市民参加により増やせる指標については、10年後を見据え、もう少し高い目標値とすべきという意見である。42ページの指標は地球温暖化対策実行計画（区域施策編）からの引用であり、そちらを改めない限りこちらを変更しにくいと聞いている。そのため、42ページは誤記以外の修正は難しいというのが市の立場である。一方、36ページの指標は、私も目標が低すぎるという印象を受けた。すでに165人という実績があるので、目標である以上、もう少しハードルを上げるべきである。人口減少の傾向はあるが、市民の機運を高めて参加を促す余地はあり、目標としては挑戦的な設定が望ましいと考える。

□ボランティア人数については庁内で検討したところ、辞退される方や、高齢の方が多いことから、人数を一気に増やすのは難しいという状況がある。人口減少も踏まえ、達成可能性を考慮して現在の目標値とした。

●今後10年間、年次報告書の審議をする際の目安となる数字である。165人は前回計画で目標超過を達成した良い実績であり、ここをピークにしたいくないという思いがある。控えめに見ても180人程度を目標にしてよいのではないか。せつかくの成果を、保守的な目標で抑えてしま

うのは、盛り上がりを止めることになりかねないので、積み増す方向が望ましいと考える。

□本日の審議を踏まえ、目標値の修正について検討したい。

●緑化率の目標はさらに難しい。自然増や意識的な取り組みがなければ減少傾向となる。現状維持という目標は心苦しいが、現実的には達成が難しい目標であることを理解していただきたい。併せて、「学校給食における地場食材の使用率」については、以前は品目数を増やす目標であったが、今回は「給食全体に占める地場製品の比率を高める」というシンプルな目標に改め、10年後に全体の4分の1程度を目指す設定にしている。

○15ページ下のグラフについて伺いたい。事業所数や従業者数に比べ、製造品出荷額が令和4年度に約70%まで急増している理由が分かりにくい。この点についてコメントを加えてほしい。

○これは大規模の事業所が立地したことが大きい要因である。製造品の出荷額が大きく、一つの事業所でかなりの額を占めているため、事業所数が大きく増えていなくても出荷額が急増している状況である。

●企業名は出さなくても、「令和4年度の出荷額の急増は、大型事業所の移転によるものである」といった説明を入れないと、質問が出ると思う。②の下あたりに、「出荷額の多い事業所の移転により増加が見られる」と1行程度追記してほしい。

○従業者数も1割以上増えている点も付け加えられるとよいと思う。

○土壌汚染の調査について質問したい。この資料には土壌汚染調査に関する記載がないが、市として土壌汚染調査は実施しているのか。

□土壌汚染調査は、市では行っていない。工場などの事業所が廃止する際に、事業者側が調査を行うものあり、市が主体となって調査するものではない。

●基本的には、工場廃止後の更地化や次の利用の前段階で、事業者が土壌汚染調査の実施の必要性について判断することになるが、現状では、土壌汚染について特段の問題はないという理解でよい。

○48ページ「適正処理の推進」の「家庭ごみの適正処理」の中に「家庭ごみ有料化」とあるが、現在も収集袋は有料となっており、さらに追加で有料化があるのかと不安に感じる。

□原則として、指定有料袋を使用して排出する廃棄物は決まっている。それ以外の廃棄物の排出については、新たに有料化することは、現時点では特に検討していない。

●「家庭ごみ有料化を行う」とだけ書くと、さらに負担が増えると誤解される。「家庭ごみ有料化を通じて…」など、既に実施している制度を前提とした書き方にしたほうが良い。

□承知した。現行の表現だと追加の有料化と読めてしまうため、文言については後日あらためて確認し修正したい。

○63ページ、最後の柱「環境学習と参加・協働の推進」について、SNSの指標に基準値・目標値が入っていない。パブリックコメント時には数値を入れた状態で示すことになるのか。これまでSNSは環境情報の告知程度にとどまっていた。

●まずはSNSの発信数をカウントして基準値とすればよい。今後は発信を確実に増やす目標になるはずである。これまで告知程度だったが、今後は日常的な啓発や新たな環境政策の周知など、常に情報を流す体制にすれば、確実に増やせる。10年後には通信技術もさらに進むので、SNSの伸びは期待できる。目標は年間40回程度でも不自然ではない。

□目標値として年間30回前後を想定していたが、再検討したい。

○本日の委員会も傍聴は可能であるが、この1年間で傍聴者は第1回審議

会での2人のみの傍聴だった。環境に関する取組を推進する方法として、ホームページやSNSによる情報発信と普及啓発が非常に重要であり、ここは高めの目標を掲げるべきである。最低でも月3回以上、年間で36回程度は目標にしてほしい。

●目標である以上、月3回を確実に実施するとすれば年間36回になるので、40回程度を目標に設定してよいと考える。

□では、SNS発信数の目標を年間40回とする方向で設定したい。

○10年後にはSNSはさらに発展しているはずである。環境学習会の開催告知にもSNSを活用してよい。月3回、週1回程度の発信ができれば、市民の認知度も高まる。SNS発信数は、62ページの「環境活動の情報発信」の評価指標として位置づけてよいか。

●この指標は施策の柱に紐づいているが、環境政策全般の情報発信を含むと考えてよい。イベントだけでなく、市民・事業者の意識啓発も含めれば、SNS発信数はむしろ目標を上回る可能性が高い。同様にホームページの閲覧数も、積極的に情報発信を行えば増える。現状20万回なら、5倍の100万回を目標にしてもよいと考える。

それでは、目標値はそのような方向でパブリックコメントまでに確定していただきたい。

○22ページ「第二次計画の振り返り」の基本施策柱1「みどり等との共生」の集計で、「グリーンヘルパーの人数が目標値を大幅に超える」とあるが、実際は8人から10人なので、表現が誤解を招かないように工夫すべき。また、「緑化率が目標値を下回っており」という記述には、緑地や農地の減少といった背景にも触れておくべきではないか。

●振り返りである以上、緑化率が低下している要因をきちんと書く必要がある。

32ページの「広域の協議会」という言葉は、市民には何を指すのか分かりにくく、もう少し明確にしてもよいのではないかと思う。

□ここでいう「協議会」は、現状の対策会議などを指しているが、必ずしも「協議会」という名称では呼んでいない。そうした場での協議を総称しているため、この表現でご理解いただきたいと考えていた。

●そういうことであれば、明確に書いたほうがよい。「広域の協議会等」の前に「東京都や近隣自治体と連携した」といった言葉を付け加えると、市民にもイメージしやすくなる。「東京都や近隣自治体との広域協議会」としておけば、何を指すかある程度伝わると思う。

○65ページの進捗管理の部分で「毎年報告書を作成し、市民・事業者公表することにより、進捗状況の点検・評価を行う」とある。市民・事業者参加の重要性が高まる中で、現状の公表内容・方法と、今後の広報の考え方について、市の考えを聞きたい。

□年次報告書は、環境審議会で審議・決定したものを、広報やホームページ等で公表している。

○それに加えて、「年次報告書を公表した」というトピックを広報誌やホームページで知らせたり、SNSで発信したりすれば、市民・事業者の関心を高められると思うが、その点はどうか。

□広報への掲載は問題ない。今年度から取り組むものとして、周知強化については可能な範囲で対応したい。

●年次報告書は既にホームページに掲載しているので、「ここにアップしています。」とSNSでリンクを流すだけでも閲覧は増えるはずである。そうした発信があれば、審議会を傍聴したいという人が増えたり、パブリックコメントに意見を出しやすい環境づくりにもつながるので、ぜひ実行してほしい。

○計画策定により新たな取組が増えれば、その分事務も増えることにな

る。本来は、重点的に取り組む分野とそうでない分野を絞ることも必要だったのではないか。全体的に目標を増やしすぎると、本来力を入れるべきだったところの目標達成が難しくなる懸念がある。今後、計画の評価を行う際に、重点項目だけでも示してもらえると、「ここは力を入れた」「ここは手が回らなかった」と整理しやすいのではないか。

□脱炭素、すなわちカーボンニュートラルの実現には市として力を入れている。基本的には、計画に記載した取組は全て実施すべきと考えており、全分野を重点的に進めるという方針である。

●事務局の立場からすると、重点化は難しいということである。私の考えとしては、前回計画からは削れるものは整理したが、フードロスや空き家対策など、時代の要請で新たに必要な取組が増えているのも事実である。環境政策の領域が広がるのは当然であり、それは生活の豊かさや、現代のウェルビーイングの水準が上がっていることの反映でもある。地球温暖化は私たちの生存を脅かす最大の課題であり、政策上の最優先事項となり得ると考える。

□環境施策の推進するうえで効率化を図る必要があるが、各委員のご意見を踏まえ対応を考えたい。

●他に意見がなければ、本日指摘された修正点を反映したうえで、パブリックコメント前に改めて資料を送付したい。追加で気づいた点があればその段階で指摘いただき、11月後半に市民へ公開する流れとしたい。本日をもって、パブリックコメント用の計画素案は、完成形として承認していただきたい。

●先ほどの議論を踏まえ、ボランティア人数の目標は10年で1割増しとし、180人を目標にすべきである。

里山等とのふれあいの場の参加者数は、まずは40人の達成を目指してもらおうということで、この目標値でいきたい。

温室効果ガス排出量は単位や桁数を整理し、小数点以下は切り上げるなど、見やすく統一したほうがよい。単位そのものを一段階まとめるなど、桁数を減らす工夫も考えてほしい。

環境に関する市広報ウェブページの閲覧回数について、目標として分かりやすくするためにも、100万回が難しければ50万回程度にするなど、より高い目標にしたほうがよい。1.5倍では意欲が湧きにくい。今の確認内容でよろしいか。修正すべき点は早急に詰めていただき、計画を進めてほしい。環境指標については、承認いただいたものとして扱いたい。

議題2 答申（案）について

－答申（案）について、事務局から説明－

●皆さんから「これは追加してほしい」という点があれば、6ページの個別意見のところに追記したい。前回までの意見を事務局で集約したものであるが、今日新たに出た意見もあるので、その中で特に入れてほしいものがあれば、私から責任をもって市長に伝える。

○最後に会長からも指摘があった、環境指標に関わる情報発信について。市民・事業者とともに目標達成を図るには、市の情報発信が極めて重要である。今後、市のホームページや公式SNSを通じて、環境に関する情報発信を積極的に行ってほしいという趣旨を答申に加えていただきたい。市民の手に届きやすい媒体を活用することが大切である。

●本日もかなり議論した点なので、その趣旨を答申に盛り込むことでよいかと思う。

	<p>○新たな指標として熱中症搬送者数をゼロ目標としたが、背景には経済的理由や生活環境があると思う。市では65歳以上の見守りなどがあるが、そうした人たちによる具体的な生活指導など、他部局との連携を含めた対策を通じてゼロを目指す、といった方向性も書き込んだほうがよいのではないか。</p> <p>●熱中症問題は、新しい環境問題として「気候不平等」という言葉が生まれるほどの社会的な課題である。今後10年間の中で重要な政策になる可能性が高く、トピックとして答申に位置づける意義は大きい。</p> <p>○事業所でも熱中症は大きな課題となっている。屋外作業のある現場では、ほぼ毎日、熱中症気味になる人があると聞く。救急搬送に至らない人も多く、一番重要なのは「暑熱馴化」、すなわち暑くなる前から体を慣らしておくことである。SNSなどを活用して暑熱馴化の重要性を市民に発信することも有効だと思う。</p> <p>●その点は確実に提言として盛り込みたい。以上の方向でよろしければ、あとは事務局で取りまとめ、市長へ答申する流れとしたい。</p> <p>議題3 その他</p> <p><input type="checkbox"/> 次回は1月上旬を予定。令和6年度の年次報告の会議を別途開催するので、1月は2回開催する可能性がある。</p> <p>—以上—</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()	傍聴者： 2 人
-------------	---	----------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	環境部	環境課	(内線：295、296)
-------	-----	-----	--------------

(日本産業規格A列4番)